

「ご町内のみなさん。おはようございます。こちらは日本共産党でございます。日頃よりあたたかいご支援をお寄せいただき本当にありがとうございます。この場をお借りしまして、お訴えをさせていただきます。大変お騒がせいたしますがしばらくの間ご協力をお願いいたします。」

さて、みなさん。いよいよ市議会議員選挙が目前に迫ってまいりました。私たち日本共産党は、天野武志、須山敏夫の両議員とともにがんばってまいりました。どうか、みなさんの、大きなご支援をいただきますよう、心からお願いいたします。

さて、今度の選挙の最大の争点は、大型ハコモノ事業を優先するのか、それとも、市民のくらしを優先するのか、にあります。吉岡市長は、就任以来、美術館やドーム付きテニスコートを建設し、ひきつづき、野球場、市民ホールなど、総額で百億円を超える大型ハコモノ事業を、借金で、おこなおうとしています。

その一方で、市民のみなさんには、住民税の大増税や強権的な税金のとりたて、保育所の民営化などを、強引に、押しつけようとしています。

このような、横暴な吉岡市政に、市民の立場でたちむかい、「市民のくらしや福祉を優先すべきだ」と奮闘しているのが、日本共産党の2人の議員です。 昨年3月議会では、他の議員とも共同して、野球場、市民ホールの予算を修正し、6月議会では、国保税の値上げをストップし、9月議会、12月議会では、「野球場建設の凍結」「大型ハコモノ事業の見直し」を求める請願の採択に全力をつくしてまいりました。

吉岡市長は、このことが、よほど、こたえたのか、自らの後援会会報で、「共産党が解放同盟と連合している」とか、大型ハコモノ事業に反対する「健全な市財政を考える会」の事務所は民主商工会で、それは、共産党である、「共産党が支配する三次市にすることはできない」と、事実無根の攻撃を、かけてきています。しかし、みなさんも、よく、ご承知のとおり、解放同盟の横暴と一貫してたたかい、同和行政を終結させてきたのは、私たち日本共産党です。 私たちは、吉岡市長に、直ちに謝罪と訂正を申し入れましたが、市長は、私たちとの面会すら拒否して、その後援会報をひきつづき配りつづけています。

みなさんの、大型ハコモノ事業に対する批判があまりにつよいため、反対の先頭に立つ日本共産党に、事実無根の誹謗、中傷を、おこない、市民のみなさんとの連帯をたちきり、強引に押しきろうというのは、あまりに卑劣で無責任な行為ではないでしょうか。 吉岡市長は、これまでも、自分の意見と違う市民には面会もしないという態度をとりつづけていますが、それは、公平な立場にあるべき市長として、とつてい、許されないことではないでしょうか。 私たち日本共産党の2人の議員は、こうしたなか、みなさんと力をあわせ、住みリフォーム助成制度の実現、小学校卒業までの医療費の助成、妊産婦の検診助成券を2回から6回に、無認可保育園も3人目以降の保育料に助成、などを実現してまいりました。 どうか、くらしをまもる願いは、日本共産党の2人の議員にお寄せください。 さて、みなさん。税金の申告時期ですが、介護保険で要介護の認定を受けている人は、障害者手帳がなくても、所得税、住民税の控除を受けられることをご存知でしょうか。日本共産党の2人の議員の申し入れに、市は「申請にこられたら、介護保険の際の主治医の意見書で確認し、税金の控除の認定書を交付する」と回答しています。余分な税金を払う必要はありません。市の窓口でぜひご相談ください。

今度の選挙は、定数が12も減るなかでのきびしい選挙です。三次市にとってかけがえのない日本共産党の二人の議員に、みなさんの大きなお力添えを心からお願いいたしましてお訴えとさせていただきます。

「ご清聴いただき誠にありがとうございました。どうか最後までよろしくお願いいたします。」